

OPINION 「国際交流の復活に備えよう」

最初にツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤーの2020に受賞された皆さんにお祝い申し上げます。コロナ下での皆さんの活躍に胸が熱くなりました。協会として、何が起きたか、そして、お客様の感謝の声まで記録し、後世に伝えて欲しいと思います。

昨年3月からJATAのコロナ禍へ取り組みは、まず、需要が戻るまでの雇用調整助成金の獲得。次に、国内需要復活への大規模なキャンペーンの実施。前提となる感染防止ガイドラインの策定。最後に、国際往来のスタンダードづくりです。

特にGo Toトラベルキャンペーンは、国内外で前例がない1兆3千億円の予算をつけて頂きました。実現した理由は2つです。1つ目はインバウンドが2013年から5年間で3倍に増え、新たに3兆円の外貨を稼ぎだす成長戦略の柱となったこと。2つ目は、自然災害からの「ふっこう割」キャンペーンが予算の8倍の消費効果を産んだ実績です。

感染防止対策は、専門医に監修して頂き旅行業、宿泊業のガイドラインを策定しました。観光庁はキャンペーンに参加する全宿泊施設・旅行会社を100項目の点検を行い指導しました。これが、6850万人泊あたり309名の陽性者だけという成果となっています。10月から始まった「イート」キャンペーンでは、役所が点検・指導をせず、変異株、冬の乾燥なども重なり大きな流行につながったのは残念です。

Go Toトラベルでは自家用車による近隣地への観光、いわゆるマイクロツーリズムが注目を集めました。一方で、海外旅行にいけないお客様が(年間2000万人)旅行

会社で日本再発見を楽しみました。秋はツアーが大きい賑わい、普段は海外旅行の添乗しているツアコンの方々を各地で見かけました。

JATAでは、緊急事態宣言の谷間の4月に、PCR検査付モニターツアーを8社9コース154名の参加を得て実施しました。事前にPCR検査を行い、ツアー前後3週間の健康観察を行うものです。陽性者はゼロ。アンケート結果では78%のお客様が「PCR検査を付けた方がいい」という答えでした。私自身、「八甲田雪の回廊と東北3大桜」ツアーに夫婦で参加しました。面倒な手続きをしても、旅を楽しむ意欲の強さが確認でき、活用できることがわかりました。

海外では感染者が多かった欧米がワクチンによって感染を抑え込み、経済や観光復活の動きが顕著です。日本も9月には集団免疫が獲得できる見込みともされ、潮目は大きく変わってきています。7月中旬には紙ベースでワクチンパスポートが発行され、スマホ版についても秋までに実用化すべく準備中です。オリパラの受入も国際往来のノウハウとして活かせると考えます。

最後に、私たちは21世紀に入り、テロ、感染症、自然災害など想定外のリスクを克服してきました。今回のコロナ禍もようやく出口の光が見えてきました。まず国内でしのぎつつ、国際往来の再開に備えて準備を始めてください。

TCSA 理事・JATA 参与
越智 良典 氏



CONTENTS

OPINION 1

「国際交流の復活に備えよう」
TCSA 理事・JATA 参与
越智 良典 氏

特集 1 2

TCSA 正会員アンケート調査

特集 2 4

コロナ禍、ベテラン添乗員は語る！
～添乗員座談会～

TCSA REPORT 7

「旅程管理主任者」資格要件の特例措置及び
旅程管理研修のオンライン化が認められました！

TCSA だより 8

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー
2021 開催中止
TCSA インバウンド検定の開催について
会員動向
編集後記

特集1

TCSA 正会員アンケート調査

コロナ禍における会員各社の経営状況と添乗員雇用維持についてのアンケートを実施しました。
今回集約した調査結果を踏まえ、今後の協会活動の有益な資料として活用していきたいと考えております。

添乗派遣事業に関する売り上げの減少率及び所属添乗員の減少率について

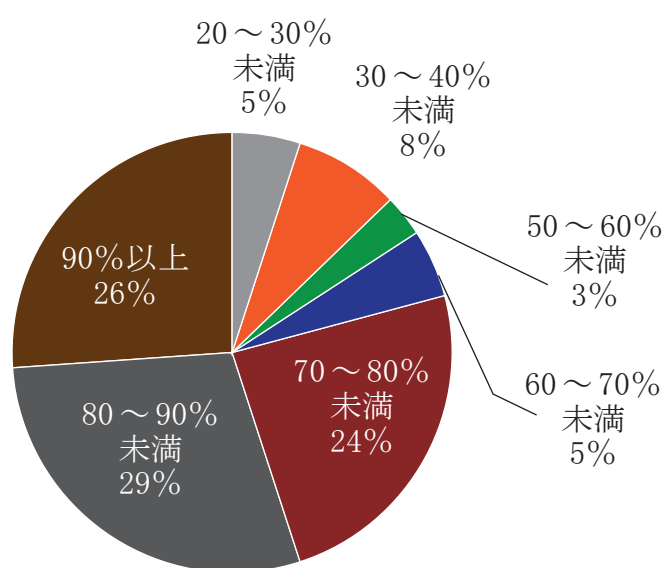
令和2年（2020年）の一年間の添乗派遣部門の売上が前年度（2019年度）と比べてどの程度減少したか、同時期の比較において、所属する添乗員の数がどの程度減少したかを調査。
回答社数は38社（インハウス系派遣会社12社、独立系派遣会社26社）。

調査実施時期：2021年5月

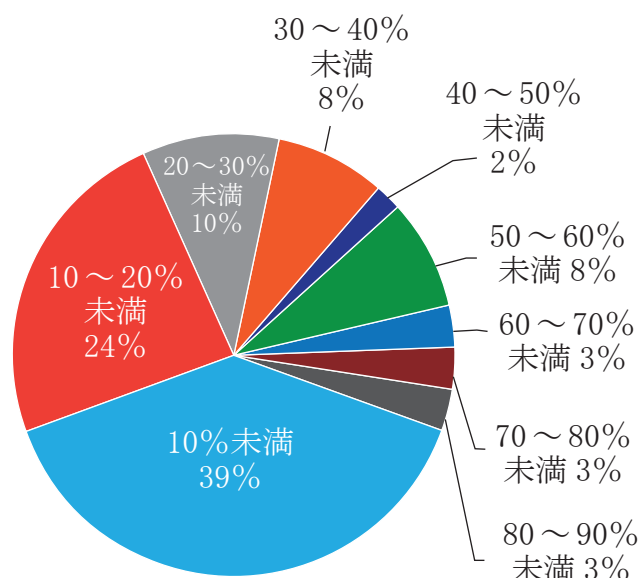
※表中の数字は社数

	売上減少率（全体に占める割合）	所属添乗員減少率（全体に占める割合）
10%未満		15 (39%)
10～20%未満		9 (24%)
20～30%未満	2 (5%)	4 (10%)
30～40%未満	3 (8%)	3 (8%)
40～50%未満		1 (2%)
50～60%未満	1 (3%)	3 (8%)
60～70%未満	2 (5%)	1 (3%)
70～80%未満	9 (24%)	1 (3%)
80～90%未満	11 (29%)	1 (3%)
90%以上	10 (26%)	

売上減少率



所属添乗員減少率



添乗派遣部門の売上減少率について、2020 年度は GoTo トラベル事業により国内添乗が一時動き出したものの、新型コロナウイルス感染症の影響は甚大で、度重なる緊急事態宣言の発出もあり、長期間添乗派遣が発生しなかったため、2019 年度の売上から「80 ～ 90% 減少」と回答した会員が一番多く、次いで「90% 以上減少」が多かった。「70 ～ 80% 減少」も含めると、約 8 割の会員の売上が大きく減少した。

所属添乗員の減少率については、登録型の派遣添乗員が多いこの業界において、添乗の仕事が無ければ給与が発生しないため、離職を余儀なくされる添乗員が多くなることを懸念したが、所属添乗員は「10% 未満の減少」であったと回答した会員が約 4 割と一番多く、次いで「10 ～ 20% 未満の減少」が 2 割強ということで、約 6 割の会員会社において、添乗員の減少が 20% 未満という結果であった。

それぞれの結果から、添乗派遣の売上が大きく減少しているにもかかわらず、所属添乗員の減少は最小限にとどまっている。

これは、会員各社が売り上げは減少しているものの、雇用調整助成金の活用や休業支援金への対応、添乗以外の派遣事業の受注等、会員各社が最大限の雇用維持に努めている結果であることが伺える。

上記調査内容に加え、要望事項等、「自由記入」への回答は以下の通り。

- ・ 雇調金の終期により、今後派遣添乗員に休業手当の支給が困難になる。終期期限の延長もしくは特例対象業界の検討をお願いしたい。
- ・ 飲食店関連には感染拡大防止協力金が手当されているが旅行が催行できないという点では旅行会社やそれに付随する会員会社も営業できないため同様の措置が取られるべきと思われる。事業主には 1 年以上僅かな給付金が支払われたものの、社会保険料、賃貸料の一部にしかならず自身は無報酬覚悟で運営している。このままの状態が続けば廃業の選択もやむを得ない事態になり雇用維持も困難となる。
- ・ ワクチン接種事業や給付金事業を受注した旅行会社等に添乗経験者を派遣したことによって、添乗員のホスピタリティスキルが自治体等「旅行業界外」から高く評価されたという効果が生まれ、結果として今後の職域拡大に貢献し得るのは利点と考えられる。
- ・ 旅行業界全体が厳しい状況の中、旅行会社への支援に対し裏方である添乗員・添乗員派遣会社への支援はまだ不確かになる場合が出てくると考えられるので、各関係先への協会としての更なる働きかけを期待している。
- ・ 今後とも幅広い情報の提供を期待している。

今回の調査結果から分かる通り、TCSA 会員である派遣会社は、添乗派遣の復活に備え、必死に添乗員の雇用維持に努めているところであるが、雇用調整助成金を活用しても、社会保険料等の雇用に係る経費は出ていく一方で大きな負担になっている。

この先の見えない状況がさらに続けば、経営が困難になる会員が出てくるのではと危惧される。

また、前号の TCSA NEWS の特集記事でも記載したが、会員に所属する添乗員も、このコロナ禍において、来るべき日に備え、添乗以外の派遣業務に従事したり、諸金を切り崩しながら生活したりという実態がある中、さらにこの状況が続けば優秀な添乗員が離職せざるを得ない状況になることが想定される。

TCSA としては、今回の調査結果を踏まえ、観光関連団体と共に GoTo トラベルの早期再開、雇用調整助成金や休業支援金の延長等の更なる要請を行っていくとともに、業界団体としてできる活動を積極的に行っていく。

特集2

コロナ禍、ベテラン添乗員は語る！ ～添乗員座談会～

猛暑が続く 8 月上旬、今般のコロナ禍において添乗業務が激減する中、ベテラン添乗員は何を思い、どのような生活をしているのか、また、“ウィズコロナ”で添乗業務はどの様に変わっていくか等について、3 名のベテラン添乗員の方々から添乗員目線で大いに語っていただきました。

三橋滋子TCSA会長（以下敬称略）

本日はお暑い中、協会へお集まりいただき誠にありがとうございます。

まず最初に自己紹介を兼ねて添乗専門職を目指されたきっかけと理由等をお話いただけますか。

奥田美穂氏（以下「奥田」）

添乗を始めたのは 1999 年で今はクルーズ添乗を中心に行っています。

以前、カフェでアルバイトをしていた時にお客様で来店された添乗員の方の話を聞いて、自分も添乗員になりたいと思い、添乗員派遣会社に所属をしました。

三橋 クルーズ添乗は通常の海外添乗とどのような点が違いますか？

奥田 船の種類とお客様の層によって異なりますが、陸の添乗より自由度が高い分、お客様の要求も高く、また、お客様の年齢層も高いため、朝から晩までお客様に付きっきりで対応しなければならないことも多く、陸の添乗にはない、英字新聞の和訳等の業務もいたします。中にはクルーズ船の楽しみ方が分からない方も多く、様々な提案をしてどうしたらお客様に楽しんで頂けるかを常に考えています。

近藤三紗氏（以下「近藤」）

初めて添乗に出た 2001 年は 9. 11 があった年で、海外添乗がない時期が続いたため、国内を 3 年ほど経験してから海外の募集型のツアーやクルーズ添乗、秘境のツアー等、様々な添乗を経験いたしました。

鈴木和恵氏（以下「鈴木」）

私は 1987 年から添乗を開始して、今年の春で 35 年目になりますが、「生涯一添乗員」として頑張っていきたいと思っています。

添乗を始めたころは日当も安く体力的にもきつい仕事と思っていましたが、コロナ禍で仕事なくなり、つくづくこの仕事は良い仕事だなと改めて感じています。今までは、ヨーロッパやアメリカ等、様々な国に行くことが「日常」でありましたが、コロナ禍で 1 年半海外に出ていないと、「私は次にヨーロッパに行けるだろうか？」と考えることもあり、お客様の「非日常」が自分自身の「日常」であったことに気づかされ、普通では経験できないことをたくさん経験できる素晴らしい

い仕事であることに改めて気づきました。

ここ 10 年位は大型のオーガナイザー団体ツアーのチーフ添乗員を任されることが多くなりました。

私は前回の東京オリンピックの年に生まれたこともあり、オリンピックに特に思い入れがあり、今回は絶対にオリンピックに携わる仕事がしたいと、オリンピック関連の仕事以外は入れないようにしていましたが、延期・無観客開催となり、その関連の仕事は全てなくなっていました。

これまでも湾岸戦争、9. 11、SARS、3. 11 等様々な災害等がありましたが、今回のコロナは先が見えないという点で、かつて経験したことのない状況だと感じています。

コロナ禍はスキルアップや 資格取得のチャンス

三橋 今はコロナ禍でツアーが催行されていませんが、皆様はどのような日々を送っておられるのですか？

近藤 確かにツアーは激減しているのですが、私は 7 月に 1 本国内添乗に出ました。お客様は 9 名でした。旅行単価はそれなりに高額になるのですが、それでも申し込まれるお客様がいらっしゃるの、GoTo でなくても行きたい人は行くんだなあと思いました。

鈴木 私は最近法人ツアーが多かったので、ここ 1 年半位は添乗に出ていません。

去年の 2 月に企業のインセンティブツアー（800 人）でタイに添乗に出たのが最後です。

今は会社から休業手当をいただきながら、テンポラリーの仕事（添乗以外の接客を伴う業務）を行っているという状況ですが、添乗が無いと、この職を離れて別の仕事に就いている人も増えてきています。いざ復活したときに今までの添乗員、特に若い添乗員が戻ってくるか非常に危惧されます。

三橋 日頃添乗業務を行っている方はサービス業のエキスパートなので、どんな場面でも人と接する仕事をお願いしたら完璧にやっていただけますよね。



そういう方たちがいつまでも的確な仕事に就けないことは会社にとっても大きなロスだと思いますし、一日も早く回復してほしいと願っているところです。

奥田 確かに一日も早く復活してほしいところですが、恐らくいくつかの国が観光渡航を解禁しては感染者が発生するというのを繰り返して思うように復活せず、通常に戻るのには2023年頃ではないかと思っています。

鈴木 昔（海外観光旅行が解禁された頃）は一定の富裕層しか海外に行けなかった時代がありましたが、今回もワクチン接種を済ませた方で、かつ、高額な商品でも参加可能な富裕層の方しか参加できないといったような状況にもどってしまうような感じがします。

奥田 私は添乗はしばらく出られないだろうと考え、少し自由にいろいろなことをやろうと思い、ペットシッターの試験を受けることにしました。その後、資格取得に目覚めて、様々な資格取得にチャレンジしようと思ったのですが、自分の中でいずれ添乗に戻るという気持ちがあったため、旅行介助士、同行援護従業者、介護資格等を取得しました。このような経験はコロナ禍でなければ経験できなかったことですし、今後、添乗員として業務に従事する際にも必ずプラスになるのではないかと感じています。

近藤 周りにもこの機会に資格を取得したいと考えている添乗員は多く、私は1月にTCSAが実施した「添乗員能力資格認定試験」を受験し無事に合格することができました。コロナ禍で添乗に出れない時間を今回のような自身のスキルアップに使えたことは今後の添乗員生活にとってプラスになるのではないかと考えています。

ウィズ・コロナツアーのルールづくり

奥田 ツアーが催行されても旅行先で感染したりすると、すぐ渡航自粛になってしまうので、業界として感染しないための共通のルールを作成してそれに基づいてツアーを催行することが必要ではないでしょうか。恐らくツアーが催行されても「万全の対策」というのは不可能だと思うので、もし感染しても補償がきちんとされるといった体制が必要なのではないでしょうか。



奥田美穂さん

飲食店の認証制度のようなものを旅行業界にも導入して、認証された旅行会社は一定の基準を満たした感染対策がされているということを消費者にアピールすれば旅行に参加するという機運も高まるように思われますが…万が一感染してしまった場合でも、指定した病院

にきちんと運ばれて、例えばご家族の方のお迎えは無料ですといった保険等が整備されれば、本人も旅行に参加しやすいし、ご家族の方も送り出しやすくなるのではないかと思います。



鈴木和恵さん

鈴木 旅行会社によっては、オプションで帰国の際にPCR検査を行って陰性だった場合は日本帰国後の隔離期間が免除されるといったことをされている（予定している）と聞きました。こういった安心安全にツアーに参加できる体制を業界として取り組んでいけば、安心安全なツアーの催行につながり、旅行に参加するお客様も増えていくのではないかと思います。

奥田 国内のバスツアーでも一人二席利用を前提とした旅行を募集している旅行会社もあれば、30人以上乗車で募集している旅行会社もあり、受付でもお客様一人一人検温したり、問診票をもらったりと添乗員一人では対応が難しくなるし、添乗員1人に対してお客様30名以上というのは添乗員の感染リスクも高まるため、お客様を守ることはもちろん大事ではありますが、添乗員を守るためのルール作りもしていただきたいと思います。

近藤 以前、添乗員が問診票の確認ミスによる感染拡大で添乗員が悪いというような報道がされましたが、添乗員からすると、40名ものお客様対応の中、それはないだろうと思いました。報道の仕方も上手にやっていただきたいと思います。

鈴木 継続的に添乗をしていた時は身体がきつくなることもありましたが、このコロナの影響で1年半添乗に出ていないと体調がものすごく良いのです。添乗を辞めたいと思ったことはありませんが、この状況で、通常通りのツアーが催行されると、自分がいざ添乗に出られるかという少し躊躇してしまいます。お客様も添乗員も安心して安全に旅行ができる環境に早くなってほしいと思います。

三橋 先程、ツアー催行に当たって、統一的なルール作りをするべきといったご意見がありましたが、そういったルール作りを行ってツアーを催行している事例はございますか？

鈴木 クルーズのツアーでは、乗船前に陰性証明かワクチン接種証明がないと乗船できないと聞いています。どちらも無い場合はPCR検査を行って陰性でないと乗船できないといったようなルールになっているようです。

乗船できる人数も制限しているようですが、それでも参加したいというお客様が多いのが実態だと思います。

近藤 国内のツアーも改めて見直されているところもあると思うので、今年の GoTo でも多くのお客様がツアーに参加されているので、感染対策をきちんと明確にした上で、早く GoTo が再開して欲しいと思っています。

昨年、国内の添乗に出た時は、今までであれば、お客様もバスに詰め込みで、オプションの販売やお弁当やお土産のピックアップ等、旅程管理以外の業務も多かったのですが、このコロナ禍においては、人数も制限して、日程的にも非常にゆったりとしているツアーが多かったように思います。また、旅館やお土産物屋さん等もコロナ対策を万全に行っているのですが、緊急事態宣言が解除されないとツアーも実施できないため、今は非常に厳しい状況だと思います。

三橋 本当にこの状況が長引くと協会会員会社が何社生き残れるのかということが非常に心配です。

近藤 私の周りでも優秀な添乗員の方が生活ができないという理由で別の仕事に転職する方もいらっしゃって、その方がツアー復活した時に戻ってくるかという、なかなか別の仕事をしてしまうと難しいのではないかなと思います。

奥田 特に家族を養っている男性の方は、添乗を続けられないということで離職する方が多くなっているという聞いています。

鈴木 人材の流出というのが非常に大きな問題となってきました。

■一定ルールを定め安心安全な旅の成功事例創りを

三橋 添乗員の皆様から見て、コロナ以前の添乗とコロナ禍での添乗はどのように変わっていくと思われますか？

近藤 今まで以上に安心安全が求められ、少人数でコロナ対策が取れた施設を使ったツアーが催行されるところから始まるのではないかと思います。



近藤三紗さん

日本国内はある程度、対策もきちんととった上でお客様を迎えることが可能かと思うのですが、海外では日本のような対策が取れているのかといったことが心配なので、ランドオペレーターの方がきちんと状況を確認し、場合によっては下見もしていただいた上で手配いただくということも必要になってくるのではないのでしょうか。

例えば、日本の飲食店では飛沫対策でアクリル板を設置して対応しているところが多いですが、海外では高級なレストラン等は別として、秘境などでは、なされていないような気がするので、施設の状況もきちんと確認した上でツアーに組み込む必要があると思います。

鈴木 海外諸国は日本と衛生観念のベースが違い、マスクを外してもいいという方が外していますが、日本では一定の方はマスクは外さないと思います。そのあたりは日本とは違うと思います。

奥田 ツアーに参加されるお客様も、感染予防の観点から、旅行会社が定めたルールにきちんと従っていただく必要があると思います。

お客様に現地ですべてのように自由に行動されてしまうと、感染の原因になりかねないので、一定のルールに従うことを約束した上でツアーに参加することが必要になってくるように思います。

鈴木 添乗員も感染予防の観点から、今までのように40名以上のお客様を見ることは難しいと思います。

ツアーへの参加人数を制限すると当然旅行単価が上がってしまいますが、それでも参加したいお客様はいらっしゃると思いますので、まずはそこから始めないと先に進まないのではないかと思います。

奥田 今までは個人で旅行に行かれる方も多かったと思いますが、現地での感染の不安があるので、パッケージツアーに参加されるお客様が増えていくと思います。

鈴木 お客様が一番欲しいのは「安心感」だと思うので、最初はある程度制限された中でのツアー実施とはなりますが、それが成功すれば、お客様は「また旅行に参加したい」ということにつながっていくと思いますので、この状況を突破できるツアーを旅行会社に造成していただけるとありがたいのですが・・・

また、以前のような「周遊型」ではなく、訪問都市を一つにして、旅行単価が高くなったとしても、まずは感染対策をきちんとしたツアーを実施してそれがうまくいけば評判が評判を呼んで、少しずつ訪問個所を増やしたり、参加人数を増やしたりといったように広がっていくのではないかと思います。

今はネガティブな報道しかされませんが、今後、このような成功事例を積極的に報道してもらえれば徐々に変わっていくのではないのでしょうか。

三橋 添乗の機会が無い状況下で、様々な努力をされていらっしゃるということがよく分かりました。

皆様からいただいた貴重なご意見、ご提言をまとめ、旅行会社にもお届けしたいと思います。

これからも益々のご活躍を期待いたしております。

本日はありがとうございました。

※掲載している写真は、撮影の時だけマスクを外して撮影いたしました

「旅程管理主任者」資格要件の特例措置及び 旅程管理研修のオンライン化が認められました！

今般の新型コロナウイルス感染症の発生に伴い、旅程管理研修の修了の前後に行う実務経験が法令で定められた範囲内に行うことができないため特例を認めてもらえないか、感染防止の観点で旅程管理研修を集合形式ではなくオンラインで開催することができないかといったご意見を数多くいただいております。観光庁へ実務経験の特例措置及び旅程管理研修のオンライン化について要望してまいりましたが、この度、それぞれについて観光庁から書面が発出されました。

その内容に関して、概要をお知らせいたします。

旅程管理主任者資格要件である「実務経験」の特例措置

1. これまでの考え方

旅程管理研修の修了の前後 1 年以内に 1 回もしくは修了後、3 年以内に 2 回の所定の実務経験を行うこと（「総合旅程管理主任者」の実務経験は海外）。

2. 今回の特例措置の内容

①上記1の範囲内に実務経験を積むことができない場合、旅程管理研修登録機関が実施する「補習」を受講し、修了試験に合格することにより、改めて旅程管理研修の修了日を定めることができる。

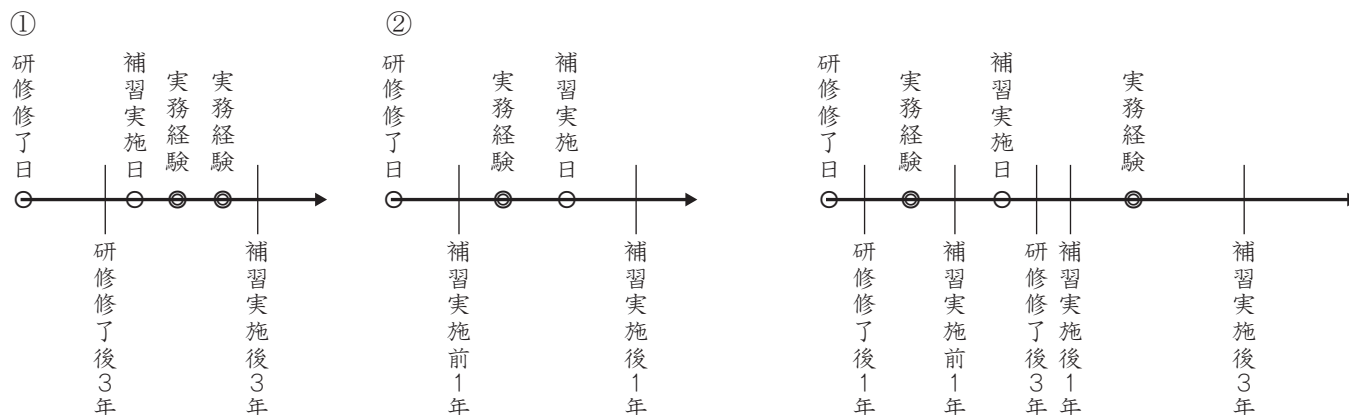
※新たに設定された修了日を起算日とし、上記1の範囲内に実務経験を行えば、資格取得要件を満たすことができるようになりました。

②「補習の対象者」は平成 29 年 4 月 1 日～令和 3 年 3 月 31 日までに旅程管理研修を修了し、上記1の範囲内に実務経験を行うことができないため、資格要件を満たすことができない者。

③「補習」受講申込時に、以前修了した「旅程管理研修修了証書（原本）」を補習を受講する機関に提出する。

④「補習」は事前に観光庁に届け出をした旅程管理研修登録機関のみが実施できる。

参考例



旅程管理研修のオンライン化

オンライン化の内容

①従来実施している旅程管理研修のうち、「講義」に関してのみをオンライン形式で実施でき、「修了試験」に関しては、従来通り集合形式での実施となる。

②オンラインでの実施方法に関して、講義内容をリアルタイムで配信する方法（ライブ配信）又は講義内容を録画した動画を配信する方法（eラーニング）のいずれかの方法で実施。

③講義について、配信される動画を全て視聴しないと修了試験を受験することができない。

④修了試験は、講義終了後、3ヶ月以内に受講すること。

⑤「補習」をオンライン形式で受講することも可能。

TCSA としての対応方

①「補習」の実施及び旅程管理研修のオンライン形式での実施それぞれ観光庁に届出を行い実施する予定です。

②旅程管理研修のオンライン化については、「eラーニング」形式で実施する予定です。

以上の内容が今回、観光庁から書面が発出されました。

TCSA では、補習及び旅程管理研修のオンライン化に向けて現在準備中でございます。

実施予定等、詳細が決まりましたらホームページ等でご案内いたします。

ご質問等がございましたら、遠慮なく TCSA 事務局までご連絡ください。

ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2021 開催中止

毎年開催している「ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2021」について、本制度は前年度 1 年間の功績が表彰の対象となりますが、昨年 1 年間は新型コロナウイルス感染症の影響により添乗業務そのものが激減した年であったこと、TCSA 正会員に対して開催可否のアンケート調査を行い、半数以上の会員から「今年度は中止した方がよい」との意見があったことを受け、「運営幹事会」で検討した結果、今年度のツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2021 の開催は見送らせていただくことといたしました。

来年度（ツアーコンダクター・オブ・ザ・イヤー 2022）は開催を予定しております。

TCSA インバウンド検定の開催について

本年6月14日に予定していた第一回目の「TCSA インバウンド検定」は、緊急事態宣言の延長により開催を延期しておりましたが、下記日程で第一回目の検定を開催することとなりました。

詳細は、改めてお知らせいたしますが、現在確定している内容は以下の通りです。

日時：2021 年 12 月 18 日（土）14:00 ～ 15:30
地区：東京（大井町きゅりあん）、大阪（エルおおさか）
級：第一回目は「初級」のみ実施

会員動向

正会員

- 代表者変更（敬称略＜＞内は前任者）
（株）アームジャパン・プロジェクト
代表取締役 片山 祐毅＜片山 高晴＞
※2021 年 1 月より
- 代表者変更（敬称略＜＞内は前任者）
（株）近畿日本ツーリスト沖縄
代表取締役社長 船場 誠吾＜田中 雅彦＞
※2021 年 6 月より
- 住所変更
（株）アドバンス
新住所：〒460-0008 愛知県名古屋市中区栄 3-35-21 菱家ビル2F
電話：052-241-7388 FAX：052-241-7580（電話番号・FAX 番号は変更なし）
- 住所変更
（株）ティーシーエイ 福岡支店
新住所：〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神 4-4-11 天神ショッパーズ福岡5F
電話：092-713-1717 FAX：092-713-1739（電話番号・FAX 番号は変更なし）
- 住所変更
（株）エスティーエス 名古屋営業所
新住所：〒451-0042 愛知県名古屋市中区西区那古野 2-25-11 スクエアオフィス名駅 701
電話：052-586-7787 FAX：052-586-7785
- 住所変更
（株）阪急トラベルサポート 東京支店
新住所：〒105-0002 東京都港区海岸 1-16-1 ニューピア竹芝サウスタワー13F
電話：03-6745-8250 FAX：03-6745-8251（電話番号・FAX 番号は変更なし）

賛助会員

- 住所変更
（一社）日本海外ツアーオペレーター協会
新住所：〒105-0004 東京都港区新橋 6-9-2 新橋第一ビル新館 6 階 B 号室
電話：03-5470-9501 FAX：03-5470-9503（電話番号・FAX 番号は変更なし）

〇〇〇〇編集後記〇〇〇〇

東京オリンピック 2020 が閉幕したが、各都道府県でコロナ感染者が増加し続ける 2021 年の夏、ワクチンの効果によりコロナ収束を願い、観光業界の一日も早い回復・活性化を心より願うばかりである（S.M）

一般社団法人 **日本添乗サービス協会**
〒140-0013 東京都品川区南大井 6 丁目 12 番 13 号 宇佐美大森ビル 9 階
TEL (03) 6435-1508・FAX (03) 6435-1509
E-mail tesa@tesa.or.jp
URL <http://www.tesa.or.jp/>